

会場

清水市民文化会館 主催・書道研究岳朋会

主宰

・書Ⅱ 広住花岳・読売書法会幹事

・水墨画Ⅱ 広住翠豊・馬驍水墨画会全国本部理事

郷土の近代短歌シリーズ 佐佐木信綱を書く 出品目録

国文学者、歌人・佐佐木信綱Ⅱ日本学士院会員・芸術院会員(一八七八〜一九六三) 万葉集の研究で知られ、竹栢会を設立。機関誌「心の花」を刊行。和歌の歴史的研究と共に多くの短歌を発表した。

清水、静岡関係の短歌は佐々木信綱歌集(竹栢会、昭和三十一年)第九巻に依ると、

歌集 鶯 十一首、山と水 二十一首、秋の声 七首。 本展ではこの内、十三首を努めて漢字かなの変換を行わず「漢字かな交じりの書」として小画仙紙半切や全半懐紙に書き、軸額装にして展示。その他、漢字、かな、臨書、八点。水墨画、額、十点。葉書絵、六点(書作品 二二点、水墨画、一六点)の合わせて四十点展示

▲テーマ作品

1. 三保が崎まつ風早み青海の沖しづかにして邊波さわげり 三保より久能へ 昭 六
2. 青海苔のまとふ粗朶垣波ゆれて入海の風少しなぎたり 〃 〃
3. ますらをも幼子さびてにこやかに手にとり見けむこれの時計を 久能山宝物館 〃
4. あげぼのの光ただよふ濱に立ち老女合掌す大き日輪 興 津 〃
5. はしきかもまろがりおつる清き雪掌にすくひ見ればあたたかき雪 蒲原日経金 昭二二 広住花岳
6. 富士の嶺に初雪ふれば稲かりて暦なき民のやすらに住みけむ 登 呂 〃
7. 田舟とめ聞きけむ聲か葦原の風さやさや剖葦なくも 〃 〃 広住翠豊
8. あし原を吹きくる風よ上つ代の登呂乙女らが歌つたへこよ 〃 〃
9. 遠つ代に心なづさふ木鋏みれば高坏みれば麻の實みれば たかつき 〃 〃
10. 泣く子にと母が持たせし猪の牙か鹿の角かも形やさしき 〃 〃
11. ところをとめ阿倍をとこらが歌垣のうた聲にまじる遠つ汐さひ 〃 〃
12. 月白し波よせかかへる眞砂路は松の影おきわが影おく 三 保 昭二九
13. ただあるは一輪の月と富士の嶺と波静かによせ静かにかへる 〃 〃

▲テーマ外作品

1. 呉昌碩 詩稿 額
2. 伝小野道風 小島切 折帖
3. 伝藤原行成粘葉本和漢朗詠集臨 折帖
4. 〃
5. 〃
6. 伝小野道風本阿弥切 折帖 広住花岳
7. 〃
8. 黄庭堅 李白憶旧遊詩卷 額

\*参考資料 清水と文学 清水文学散歩の会編刊 昭和四十年

佐佐木信綱歌集 九巻 竹栢会編 昭和三十一年

清水・静岡の近代短歌を書く 書道研究岳朋会 平成九年

静岡大百科事典 静岡新聞社